

『学校再編に関する主なご質問と回答』

質問1 なぜ、佐世保市で学校再編を行うのですか。

佐世保市の児童生徒数は、令和元年度時点で、昭和のピーク時に比べて8割近く減少しています。一方で、学校の数はいまだにあまり減っていないため、1校当たりの児童生徒数が少ない、いわゆる「小規模校」が増加しています。

また、学校施設の老朽化が進んでおり、建築年数が40年を超える校舎がある学校は、全体の7割に上ります。しかし、校舎等を建て替えても、児童生徒数が減少し続ければ、施設も十分な活用をされない可能性があります。

児童生徒が、多様な考え方にふれたり、社会性を身に付けたりするという点から、学校においては、ある一定規模の大きさを確保する必要があると考えます。そこで、人口減少と施設老朽化が進む本市では、将来の児童生徒数を見据えた学校再編、つまり、学校規模の適正化や効率的な教育環境の整備に取り組んでまいりたいと考えております。

質問2 学校再編は、何年後を想定して実施する計画なのですか。

今回の学校再編基本方針は、イメージとして今後20年間を想定して策定しております。ただし、財政状況や、人的・物的要因を勘案しますと、柔軟に考えておく必要があると考えています。

また、個別の学校ごとの再編時期については、まだ決定しておりません。令和3年度中に対象地域で意見交換会を行い、再編推進の方向におおむねご賛同をいただいた学校、あるいは再編の有無を含めて今後協議を進めていくことを確認させていただいた学校について、再編の順序等をまとめた学校再編整備計画に組み込んでいきたいと考えております。

質問3 コロナウイルスなどの感染症の流行を考えると、小規模校の方が密集を避けることができ、むしろ安全といえるのではないですか。

確かに、小規模校は多人数による密集は避けられるかと思えます。しかし、これまで各学校において取り組んでこられた様々な工夫によって、学校の規模にかかわらず、密集状態となることは避けることができると考えております。

また、授業等において、子どもの資質・能力を育むためには、子ども同士のコミュニケーションが重要なため、密集は避けても、密接な会話や交流が必要となります。その点で、感染症については、学校の規模にかかわらず、同様のリスクがあるかと思えます。

また、コロナウイルスのような特殊な感染症が、毎年流行するとは限らないことを鑑みると、感染症に備えて小規模校を維持することよりも、感染症予防対策の実施を前提としながら、学校規模の改善による多様な考え方に触れ、コミュニケーション能力を高めていくことを目指す方が、児童生徒にとってより良い学校環境づくりになるのではないかと考えます。

質問4 学校を再編する場合、通学の安全性をどのように確保するのですか。

学校再編に伴う、学校の配置や通学区域の設定にあたっては、学校の規模のみならず、通学距離・時間が児童生徒の心身に与える影響や安全性を十分に考慮する必要があると考えています。

学校再編により通学区域が変わったり、通学路が変わったりする場合には、再編の準備段階から保護者や地域の皆様、学校、教育委員会で、通学路の安全点検を行います。

また、統合後にバスでの通学になる場合でも、子どもたちが安全に乗り降りできるように、例えば、通学に慣れるまで教職員が下校時にバス停まで送るなど、安心して通学できるような環境づくりに努めます。

質問5 通学距離の基準が小学校4km、中学校等6kmとありましたが、昔と今の子どもたちは生活様式や歩くことへ認識が違ふと思います。バス利用など、通学助成に対する市教育委員会の考え方を示してほしいです。

現行基準では、バスなどの通学補助の対象となるのは、小学校では4km、中学校・義務教育学校では6kmを超える地域を一定の目安としています。文科省では、平成27年の公立小・中学校の適正配置等に関する手引きにおいて、この基準となる距離を、引き続き、「目安としてはおおむね妥当」としながらも、「通学距離だけで設定することは実態にそぐわないケースが増えている」とし、「通学手段に問わず『おおむね1時間以内』を一応の目安」と示し、各市町村において、地域の実情に応じて判断を行うことが適当としています。

一方で、確かに、現在の生活・交通環境を考えると、学習用具を抱え、雨の日や暑い日などの気象条件が悪い時など、長時間歩くことになれば、児童生徒の負担は大きいと思われる。

そこで、再編に伴う通学助成に関しましては、道路状況、交通環境、高低差など、各地域の事情も考慮し、保護者や地域の皆様と協議を重ねながら、距離基準に満たない場合の通学助成の有無をはじめ、助成する場合のバス等の具体的な運行ルートや乗降時間などの運行計画について検討してまいります。

質問6 学校再編は、地区自治協議会の区域にも関係すると思いますが、学校再編と合わせ、地区自治協議会の再編も行うのですか。

佐世保市教育委員会といたしましては、地区自治協議会の再編をご提案する予定はございません。

基本方針の④「地域」にありますように、学校再編を検討する過程で、通学区域（校区）を見直す場合は、地域のご意見を踏まえ、地区自治協議会や自治会等の区域に配慮したうえで、再編案をご提案するものです。

質問7 再編後の学校跡地利用はどのようなになるのですか。

学校再編案の提案時点におきまして、跡地利用については未定です。

学校跡地の利用につきましては、長年愛着を持って利用してこられた、地域の皆様のお話もお伺いしながら、佐世保市のまちづくりとしての観点から、最もよいと思われる活用策を見出し、有効に活用してまいりたいと考えております。

質問8 統合により身近な学校がなくなると、地域コミュニティが衰退するのではありませんか。

佐世保市には地域に愛されてきた伝統校が多く、そうした身近な学校がなくなることの寂しさは、誰もが共感するところです。また、学校は、教育の場であるだけでなく、地域コミュニティの核として、防災や地域交流など、様々な機能を併せ持っているため、地域の皆様にとっても重要な施設と考えています。

学校再編が行われたとしても、それぞれの地域では、変わらず子どもたちが生活していきます。各地域の子どもたちに対し、引き続き、地域の皆様の温かい見守りやご支援をいただければ幸いです。

一方で、再編統合をきっかけに、これまで別の校区であった地域の方々が統合校にかかわることで、地域の方同士の新しい絆ができることも考えられます。また、子どもたちが各地域の行事に、旧校区を越えて参加することで、地域の活性化につながる可能性も期待できます。学校の再編は子どもたちの教育環境整備が重要な目標ではありますが、保護者や地域の皆様にとりましても意義あるものとなるよう、防災や地域交流といった視点にも配慮しながら進めてまいります。